

# 地域計画 波瀬みらい物語



はぜ  
波瀬むらづくり協議会

HP アドレス

<http://haze-muradukuri-kyogikai.jimdo.com/>

令和3年3月31日

波瀬むらづくり協議会

## 目 次

### ◆ はじめに

1. 波瀬むらづくり協議会役員構成図	1 頁
2. 目的を達成するための6つの部会	1 頁
3. 部会の活動目標	2 ~ 4 頁
4. 分野別の地域計画	5 ~ 7 頁
5. みらい物語	8 頁
6. 計画の推進体制	9 頁
◆ 地域計画の策定にあたって	10 頁

## はじめに

波瀬むらづくり協議会は、平成 27 年 3 月に地域計画を策定してから 5 年以上が経過しました。

これまで、少子高齢化をはじめ様々な課題解決を図るため、行政と連携して取組んでまいりました。

地域に残された唯一の波瀬小学校も平成 20 年 3 月末に休校となつたため、せめて種火だけは消さないように「生きるを学ぶ」体験学習の受け入れでつないでいます。

松阪市では、これまでの 4 ある住民協議会が「住民自治協議会」として新たにスタートすることになりました。

波瀬むらづくり協議会は、昭和 56 年 7 月に設立された「波瀬地域開発推進協議会」を引き継ぎ、平成 12 年 7 月に「波瀬むらづくり協議会」としてスタートし、市町合併により平成 19 年 5 月に住民協議会として再編成を経てきました。

「住民自治協議会」は、条例に自治会が明記され、自治会部会と公民館部会の設置が必置となりました。

さらに、地域計画策定の位置づけがより強化され概ね 5 年を目途に今必要なことの整理を行う必要が生じました。、

人口減少は、全国的な時代の流れのため避けることはできません。

このため、交流人口を増やすことにより地域の活性化を図るキャッチフレーズ「人の寄るむらづくり」を掲げています。

まず、波瀬地域の住民を「波瀬ゆりの球根」に、部会の取り組みを「波瀬ゆりの花」に、交流に訪れていただく方々を「波瀬ゆりに集まる蝶や蜜蜂などの昆虫」にそれぞれ例えられています。

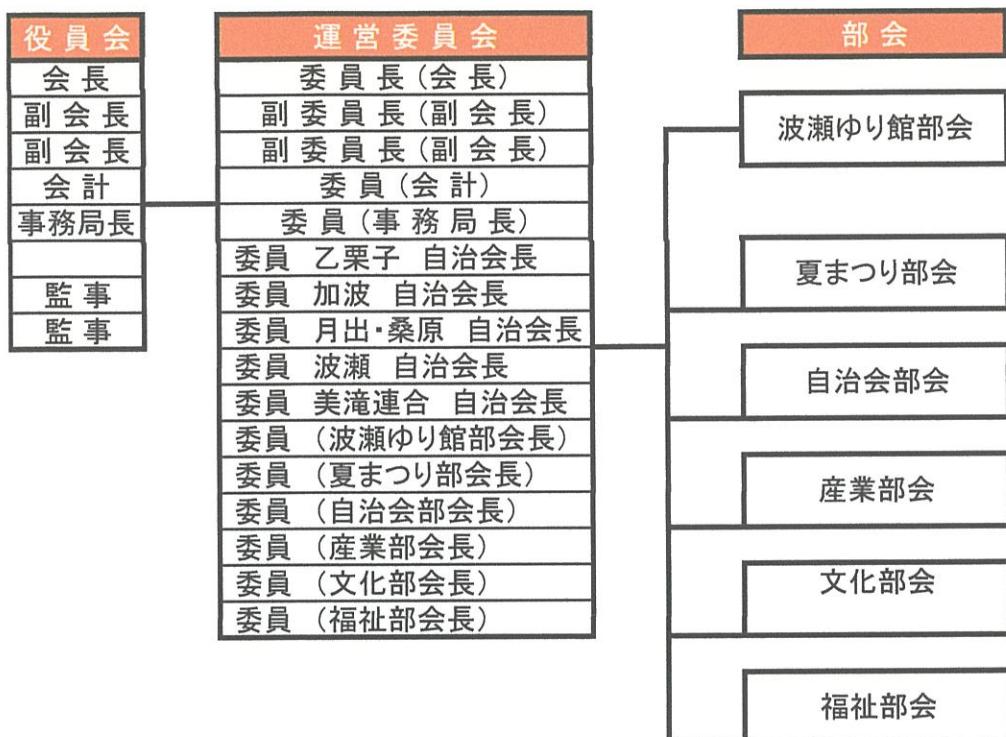
こうした主役を支えるのが、「土」（先人から受け継がれてきた歴史や自然）であり、「水」（松阪市や社会福祉協議会による様々な支援）と、「肥料」（関西学院大学の応援）だと思います。

このキャッチフレーズに込められた想いは、松阪市の花に指定された「波瀬ゆり」が主役となって物語を紡いでいこうという決意です。

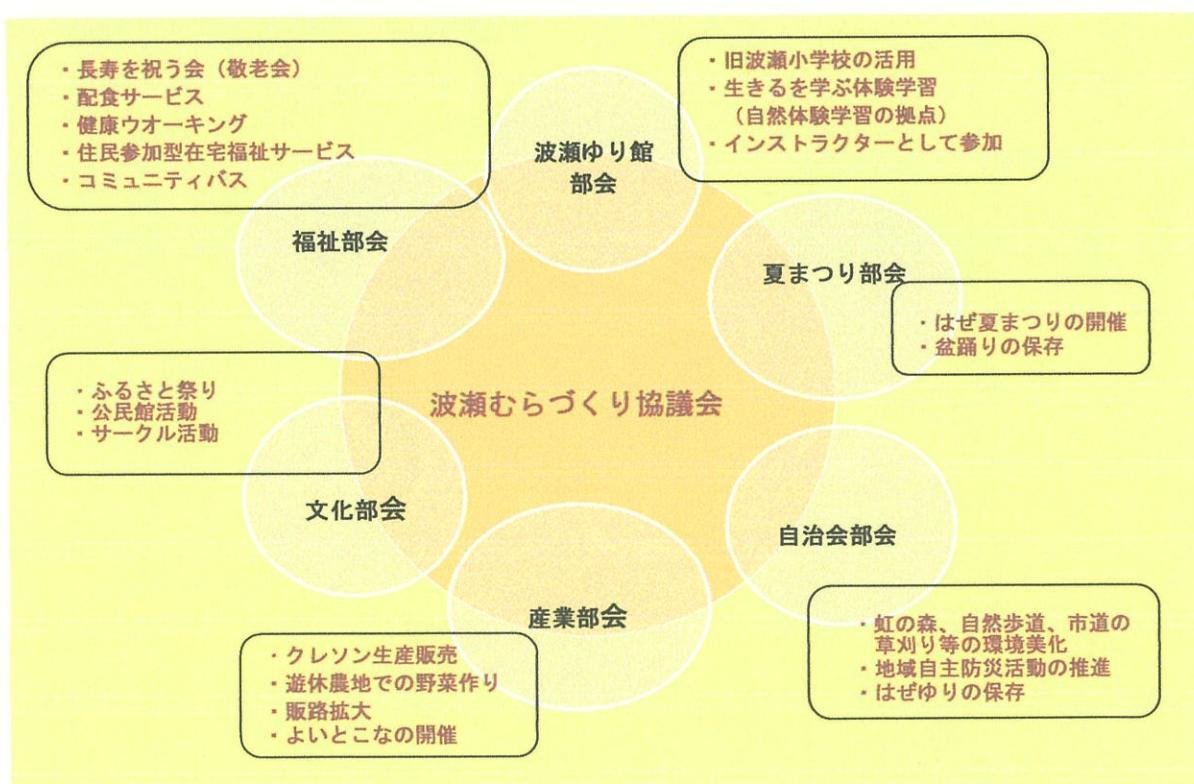
みなさん、未来に向かってむらづくりに取り組んでいきましょう。

令和 3 年 3 月

## 1. 波瀬むらづくり協議会役員構成図



## 2. 目的を達成するための6つの部会



### 3. 部会の活動目標

「人の寄るむらづくり」を活動の中心に据え、様々な交流を深め、取組みを更に進めていくために次の6つの部会を組織し、活動を行います。

#### ① 【波瀬ゆり館部会】

##### 波瀬小学校を活用した体験学習の取り組み

平成20年3月末に休校となった波瀬小学校を「波瀬ゆり館」と名づけ、「生きるを学ぶ」体験学習の拠点として活用します。

指導者は、住民のなかで匠（達人）と呼ばれる方が、「山」「川」「里」の3つのキーワードにそった生活の知恵（技）を子供たちに伝えることにより、波瀬地域の自然や文化、歴史、産業などを学んでいただきます。

なお、「波瀬ゆり」とは、この地域に昔から自生する大輪で香り豊かな「ヤマユリ」のこと、波瀬地域の住民は「波瀬ゆり」と呼んで、保護に務め親しんでいます。

また、この花は市の花にもなっていることから冒頭の「人の寄るむらづくり」のシンボルとしました。

#### ② 【夏まつり部会】

##### はぜ夏まつりの開催

地域住民とお盆で帰省される人たちとの交流の場として「夏まつり」を開催し、波瀬地域の伝統的な盆踊りの保存に努めてきました。

また、関西学院大学生による若いエネルギーをいただき、波瀬地域の活性化を図っていきます。学生ならではの斬新なアイデアが住民に変化をもたらし、大学、波瀬地域ともによい連携を継続していきます。

・盆踊りの保存（祭文踊り、やっこ踊り、はせ踊り、ふたつ拍子、たんだ踊り  
やっちょん踊り、あいひき踊り）

#### ③ 【自治会部会】

##### 環境美化運動や防災訓練の実施

私たちの住む波瀬地域の良さを再認識し、美しい自然を守っていくとともに、風情ある景観づくりに務めます。

各自治会による公共施設や道路端の草刈りをおこない、地域の景観にあった四季折々の花木の植栽や保全を積極的に進めます。

各自主防災組織の強化を図り、防災意識の高揚に務めます。

- ・虹の森環境整備 (草刈、施肥、補植作業)
- ・道路沿いの環境整備 (樹木の植栽、剪定)
- ・各自主防災組織の充実 (防災訓練及び消火栓訓練の実施)
- ・「はぜゆり」の保存、増殖、保護活動
- ・委託事業 公衆トイレの清掃 (波瀬)  
近畿自然歩道管理及び中央構造線パトロール管理

#### ④ 【産業部会】

遊休農地の再生と地域特產品の掘り起こし

遊休農地の活用を図り、景観保全や獣害の軽減、産地のブランド化、農業の6次産業化等に取組みます。

波瀬ブランドとして定着するクレソンの生産増加に務めるほか野菜作りも行い、収穫したクレソンや野菜の販路拡大に努めます。

このほか、地域の交流の場として、よいとこな会を開催します。

- ・遊休農地活用と農作物販売組織の充実
- ・クレソンを中心とした加工品の開発
- ・獣害対策への取組み
- ・「月出の里」整備事業 (ふるさと応援寄付金)

#### ⑤ 【文化部会】

住民がいきいきと楽しめる文化活動の取組み

波瀬公民館では、文化講座、現地視察、サークル活動、などを開催します。

また、秋には、ふるさとまつり（文化祭）を開催し、作品の展示やステージ発表などを行います。

さらに、協議会の幅広い活動を、迅速に多くの人たちに伝えるため、HPを作成するとともに、[\(http://haze-muradukuri-kyougikai.jimdo.com/\)](http://haze-muradukuri-kyougikai.jimdo.com/) 会員向けに「よいとこな通信」を年数回発行するなど、積極的に情報発信を行います。

- ・波瀬公民館活動の充実
- ・波瀬ふるさとまつりの充実
- ・史跡、旧跡、伝統文化の継承
- ・「よいとこな通信」の発行
- ・ホームページの更新

## ⑥ 【福祉部会】

### 住民の福祉と健康づくり

波瀬地域の福祉活動として、健康をテーマとした講演会、グランドゴルフ、ゲートボールの普及、健康ウォーキングなどを行います。

「波瀬ふるさとまつり」では、多年にわたり社会につくしてこられた高齢者を敬愛し、長寿を祝う会（敬老会）を開催します。

また、各地域のボランティアが交代で、暑い時期を除き毎月1回、一人暮らしのお年寄りに配食サービスを行います。

「飯高波瀬・森コミュニティーバスたかみ」の充実に努め、交通弱者といわれている子どもや高齢者の足の確保に努めます。

高齢者が住みなれた地域で安心・安全に暮らし続けることのできるよう、住民参加型在宅福祉サービスの利用会員と提供会員の普及促進を行います。

## ⑦ 関西学院大学との連携継続

「限界集落に限界はない」を合言葉に、平成21年から関西学院大学の学生と連携して取り組んできた以下のことを継続します。

- ・「生きるを学ぶ」体験学習プログラムの共同作成
- ・夏まつりやふるさとまつり（文化祭）のスタッフ受け入れ
- ・遊休農地を再生した「クレソン」の栽培農園の維持管理

## ⑧ 豊かなむらづくり表彰受賞による継続審査や視察・取材の受け入れ

### 日本農林漁業振興会会长賞受賞・農林水産大臣賞受賞・総務大臣表彰

平成25年度に「豊かなむらづくり全国表彰事業むらづくり部門」において、東海農政局管内で農林水産大臣賞を受賞し、この決定を受けて学識経験者等から構成される「農林水産祭中央審査会むらづくり分科会」において、天皇杯、内閣総理大臣賞に次ぐ日本農林漁業振興会会长賞（全国3位）を受賞しました。

平成29年度には、総務大臣表彰も受賞したことから、表彰団体からの継続審査を受け入れるとともに、全国各地から視察や取材の受け入れにも対応が必要です。

#### 4. 分野別の地域計画

##### ①「生きるを学ぶ」体験学習で元気なむらづくり（実施主体 波瀬ゆり館部会）

事業名	事業内容	主体	スパン	予定期	摘要
(1)「生きるを学ぶ」体験学習事業	子どもたちに「生きる力」を体験させる事業を進める。「山」「川」「里」の達人は、住民の匠の技を子どもたちに伝え、波瀬地域の自然や文化・歴史産業などを体験しながら学べる事業。 尚、この事業は波瀬小学校施設が休校中に限り施設の維持管理を市において継続していくだくことが前提となる。	自主	中期	R3～(継続)	
(2)指導員(達人)の研修事業	地域住民(達人)が各々の分野で長年培ってきた技術や知識を指導する研修を随時行う。	自主	短期	R3～(継続)	

##### ②「自然を守り地域防災体制の強化」で安全安心なむらづくり

(実施主体 自治会部会・産業部会)

事業名	事業内容	主体	スパン	予定期	摘要
(1)「虹の森」「道路沿い」の環境整備事業	「虹の森」の草刈り、施肥、剪定及び補植作業 国・県・市道沿いの景観美化事業を進める。	自主	短期	R3～(継続)	
(2)防災訓練事業	自主防災組織の強化を図り、防災意識の高揚に努める。また、防災訓練を通し、万一の被災に安心なまちづくりを進める。 消火栓ボックスの維持管理を行う。	自主	短期	R3～(継続)	
(3)「はぜゆり」の保存保護事業	市の花にもなっている「はぜゆり」の保護、増殖に努める。	自主	短期	R3～(継続)	
(4)防犯灯整備事業	各自治会で設置、維持管理している防犯灯の設置に対し助成を行なう。	自主	短期	R3～(継続)	
(5)斎場運営事業	飯高管内火葬場運営委員会の運営を行う。 波瀬斎場の廃止に伴う跡地処理を行政と協議する。	自主	短期	R3～(継続)	
(6)遊休農地の再生と農作物販売組織育成事業	遊休農地の再生を図り、景観の保全と地域特産品の掘り起こしに努める。	自主	短期	R3～(継続)	
(7)波瀬の里整備事業	ふるさと応援寄付金を活用した山里の整備を行い、波瀬地域の景観保全に努める。	自主	短期	R3～(継続)	

**③「地域コミュニティ活動と多様な交流」で開かれたむらづくり**  
**(実施主体 夏まつり部会・文化部会・産業部会)**

事業名	事業内容	主体	スパン	予定期	摘要
(1)「夏まつり」事業	地域住民とお盆で帰省される人たちとの交流の場として夏まつりを開催し、波瀬地域の伝統的な盆踊りの保存に努める。	自主	中期	R3～(継続)	年1回
(2)「ふるさとまつり」事業	公民館のサークル活動及び各講座での作品の展示発表を行う。福祉部と共に「長寿をお祝いする会」を行う。	自主	短期	R3～(継続)	年1回
(3)交流会・イベントの開催事業	様々な人や地域と活発な交流を進め、波瀬地域を訪れやすい取組みを行なう。	自主	短期	R3～(継続)	年3回
(4)公民館運営事業	公民館活動を通して、一人ひとりの生涯学習を推進する。 地域社会づくりに参画できる人材を育成する。	自主	短期	R3～(継続)	
(5)広報誌及びHPによる情報発信事業	協議会の活動を迅速に多くの人たちに伝えるため、「HP」の更新及び会員向けに「よいとこな通信」を発行するなど情報発信を行う。	自主	短期	R3～(継続)	年2から3回 随時

**④「地域福祉の推進と健康づくり」で安心なむらづくり**  
**(実施主体 福祉部会)**

事業名	事業内容	主体	スパン	予定期	摘要
(1)福祉活動・健康づくり事業	地域住民が安心して生活を送るための福祉活動と健康づくりに取組む。 ・「住民参加型在宅福祉サービスの普及促進」 ・「健康ウォーキング」 ・「健康福祉講演会」	自主	短期	R3～(継続)	毎年1回
(2)長寿を祝う会事業	長年にわたり社会につくしてこられた地域の高齢者に対し、長寿をお祝いし労を労う行事を行う。(敬老会)	自主	短期	R3～(継続)	年1回
(3)コミュニティーバス充実事業	「飯高波瀬コミュニティーバスたかみ」の充実に努め、交通弱者といわれる子どもや高齢者の足の確保に努める。	自主	短期	R3～(継続)	

⑤ その他

事 業 名	事 業 内 容	主 体	ス パ ン	予 定 時 期	摘 要
(1)木樅三滝の周遊コース整備事業	木樅川の清流を流れる「白滝」「女滝」「不動滝」の三滝は、周遊コースが災害により危険なため復旧の必要がある。	市	中 期	R3～	
(2)月出の中央構造線の観察所整備事業	国指定の天然記念物「月出の中央構造線」は、観察所が老朽化しており、危険なため早急な修復が必要である。	市	中 期	R3～	
(3)県営林道の開設事業	林業生産コストの軽減、森林保全管理を進める上において、基盤整備の充実が必要不可欠と考える。 ・櫛田川右岸流域縦貫林道の開設	県	長 期	R3～	

## 5. みらい物語

～住民参加の懇談会で出された意見から抽出～

波瀬地域における仕事の創出と移住者の受け入れに向けた取り組み

① 半農半X事業の事業化（起業）の研究及びその支援【産業部会・福祉部会・文化部会】

・・・農業と福祉、農業と教育（研修受入等）など、農業とセットの事業化（起業）の研究及び具体化した場合の支援を行う。新規就農者への補助金があれば移住者の受け入れや企業誘致の手段としても活用できる。

名古屋大学の調査研究プロジェクトによる農地や森林の管理サポートでアドバイスをいただく。

② 場所を選ばない仕事を持った人の移住促進【自治会部会・文化部会・産業部会】

・・・波瀬の自然環境を活かし、IT企業や芸術家など場所を選ばない仕事をしている人たちの移住促進を図る。そのためにも、波瀬での暮らしの魅力を発信していく方策を同時に検討する。

③ 波瀬むらづくり協議会における仕事づくりの検討【産業部会】

・・・「遊び心のある仕事づくり」による雇用が生まれる仕組みをつくることができないかを検討する

④ 廃校によるむらづくり協議会の関わり方を協議【波瀬ゆり館部会・自治会部会】

・・・今後、現在休校中の波瀬小学校が廃校になった時の固定経費負担をどうしていくかという課題を行政と協議し、有効活用の方策を検討する。

## **6. 計画の推進体制**

今回の地区計画を推進していくにあたり、検討を要する事業については定期的に運営委員会及び各部会において協議を重ね、実施へとつなげていく。同時に、事業の進捗管理と評価を行う。

また、既存の部会メンバーのみでは対応が難しいものもあるため、行政や社会福祉協議会等関係団体との協議を行い助言や支援を求めていく。

#### ◆ 地域計画の策定にあたって

この計画は、地域住民の参加と総意に基づき策定されたものであり、地域住民の理解と協力のもと、自主的、積極的な活動の指針となるものです。

#### ◆ 運営委員会委員

(役 職)	(氏 名)	(役 職)	(氏 名)
委員長（会長）	福本博行	【委員】	
副委員長（副会長）	大西敏一	波瀬ゆり館部会長	西村全平
副委員長（副会長）	向東克巳	環境安全部会長	田中 晃
委員（会計）	井谷雅昭	夏まつり部会長	向井則男
		産業部会長	北川京子
委員（事務局長）	寺脇 充	文化部会長	寺脇 功
		福祉部会長	谷 隆二
【委員】			
乙栗子自治会長	増田正巳	加波自治会長	中川隆宣
月出桑原自治会長	森 武	波瀬自治会長	沖中由治
美滝連合自治会長	水谷徹也		

#### ◆ 地域計画策定の経過

第1回運営委員会	令和2年4月22日
第2回運営委員会	令和2年6月1日
第3回運営委員会	令和2年6月30日
第4回運営委員会	令和2年10月15日
第5回運営委員会	令和3年2月4日

#### 【地域活性化セミナー】

第1回	令和2年7月2日	参加者	7人
第2回	令和2年7月31日	参加者	8人
第3回	令和2年8月28日	参加者	11人
第4回	令和2年9月14日	参加者	7人
第5回	令和2年9月25日	参加者	10人
第6回	令和2年10月23日	参加者	12人
第7回	令和2年11月9日	参加者	18人
第8回	令和2年11月16日	参加者	9人
第9回	令和2年11月27日	参加者	6人
第10回	令和2年12月11日	参加者	10人
第11回	令和3年1月8日	参加者	9人
第12回	令和3年1月28日	参加者	9人